

令和6年度第1回 宮城県行政評価委員会

日 時：令和6年4月24日（水曜日）

午前10時30分から午前11時30分まで

場 所：宮城県行政庁舎11階 第二会議室
（対面、オンライン併用）

1. 開会

(大場課長補佐兼企画員(班長))

それでは、ただいまから令和6年度第1回宮城県行政評価委員会を開催いたします。

2. 挨拶

(大場課長補佐兼企画員(班長))

開会に当たり、宮城県企画部長の武者より御挨拶を申し上げます。

(武者企画部長)

本日は、お忙しい中、宮城県行政評価委員会に御出席をいただき、誠にありがとうございます。

本日は、新たに委員の任期が始まって最初の委員会であり、先ほど委嘱状をお渡しいたしました。

委員の皆様には、御多忙にも関わらず委員に御就任いただき、厚くお礼申し上げます。何かとお手間をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類に完全に移行し、今まで止まっていた地域の経済活動が戻りつつある半面、急激な人口減少、あらゆる分野での人手不足が顕在化し深刻になっております。

こうした難局を乗り越え、地域とともに課題解決を図りながら、宮城県の更なる躍進に向けて、より一層取り組んでまいりたいと思っております。

そのような県の政策・施策を進めるに当たりましては、県民の視点に立った成果重視の行政運営を進めることが必要であります。plan-do-seeのための行政評価のプロセスにおいて、行政評価委員会の皆様の御意見を伺い、いただいた御意見をしっかりと我々も評価に反映させ、良い政策、実効性の高い取組につなげていきたいと考えております。今後、各部会を中心とした審議の場において、皆様の専門的な御意見、活発な御議論をお願い申し上げまして、開会に当たっての挨拶といたします。

この任期中の御審議、どうぞよろしく願いいたします。

(大場課長補佐兼企画員(班長))

続きまして、定足数の報告をさせていただきます。本日は7名中6名の委員に御出席いただいております。行政評価委員会条例第4条第2項の規定による定足数を満たしていることから、会議は有効に成立していることを御報告いたします。次に、会議の公開についてですが、当委員会運営規程第5条の規定により当会議は公開とします。

3. 議事

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) 委員及び部会委員の所属部会の指名、部会長及び副部会長の指名について

(大場課長補佐兼企画員(班長))

それでは、これより議事に入ります。

委員長が選任されるまでの間、企画部長を仮議長として議事を進めさせていただきたいと存じます。よろしいでしょうか。

それでは、御意見等がないようですので、部長の武者が仮議長を務めさせていただきます。
(武者企画部長)

しばらくの間、仮議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは、次第に従いまして、議事を進めてまいります。

(1) 委員長及び副委員長の選出について 資料 1 としてお配りしている「行政評価委員会条例」第 3 条第 1 項の規定により、委員長及び副委員長は、委員の互選によって定めるとされております。いかがでしょうか。

委員の皆様から御意見などございますか。ないようでしたら、事務局から案を提示させていただきたいと思いますが、よろしいですか。それでは事務局からお願いします。

(嘉藤企画・評価担当課長)

事務局といたしましては、委員長は青木委員に、副委員長は佐藤委員にそれぞれお願いしたいと考えております。

(武者企画部長)

ただいま事務局から案を提示させていただきました。大変恐縮ではございますが、委員長を青木委員に、副委員長を佐藤委員にお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。

(全委員)

異議ありません。(異議なし)

(武者企画部長)

ありがとうございます。御異議がないようですので、青木委員、佐藤委員には委員長、副委員長へ御就任いただきます。それでは、私の仮議長の進行は以上とし、今後の進行は青木委員長にお願いします。

(青木委員長)

委員長へ就任いたしましたので一言申し上げます。先ほど武者部長から県民の視点に立った成果重視の行政運営が必要と伺いましたが、成果重視という視点も、県民視点に立つことも大規模な事業になると大変であろうと考えてございます。私も大学の運営を担当していますが、ステークホルダー重視で成果を重視した運営は、珍しい視点だと思いますので、県の皆様の努力をより良いものにできるようにしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(青木委員長)

それでは議事 2 委員及び部会委員の所属部会の指名と、部会長及び副部会長の指名について審議をさせていただきます。資料 1 を御覧ください。

このことについて、条例第 6 条第 4 項及び第 5 項の規定によって委員長が指名することになっておりますので、私から指名します。事務局から資料をお配りいただけますか。

(事務局から資料配布)

(青木委員長)

各部会への所属は、お配りした資料のとおり、まず政策評価部会の部会長は佐藤副委員長にお願いし、副部会長を館田委員にお願いします。大規模事業評価部会の部会長は小野田委員に、副部会長は板委員にお願いしたいと思います。

また、公共事業評価部会の部会長は吉田委員に、副部会長は庄司委員にそれぞれお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上で議事 2 を終了します。

4. 報告

令和 6 年度宮城県行政評価委員会等の開催予定について

(青木委員長)

続きまして、令和 6 年度宮城県行政評価委員会等の開催予定について、事務局から報告をお願いします。

(嘉藤企画・評価担当課長)

それでは令和 6 年度宮城県行政評価委員会等の開催予定について御報告をいたします。資料 2 を御覧ください。現時点における今年度の委員会等の開催予定となっております。まず 1 行政評価委員会につきましては、本日の開催に加えまして、来年 3 月にも各部会の審議結果の報告等のために開催を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして 2 政策評価部会については、今年度は 6 月から 7 月にかけて 3 回開催する予定としております。評価対象等につきましては、記載のとおりでございます。

続きまして 3 大規模事業評価部会については、評価が必要となる場合は、今年度につきましては、現地調査を含め 4 回程度の開催を予定しております。評価が必要となる場合と申し上げた理由は、対象事業につきましては現在精査中であり、未定としているためでございます。

最後の 4 公共事業評価部会については、今年度は農業農村整備事業 1 件、河川改修事業 3 件について評価が必要となる見込みであり、現地調査を含めて 4 回程度の開催を予定しております。

以上、令和 6 年度宮城県行政評価委員会等の開催について申し上げます。よろしくお願いいたします。

(青木委員長)

何か御質問、御意見等がございますか。

よろしいですか。それでは以上で報告を終了します。

5. その他

令和 6 年度宮城県行政評価委員会等の開催予定について

(青木委員長)

その他、本日出席いただいている委員から一言いただきたいと思います。佐藤委員からよろしければ一言をお願いします。

(佐藤副委員長)

東北大学災害科学国際研究所の佐藤です。昨年度に引き続き政策評価部会の部会長をさせていただきます。例年、県民目線に立つことを部会でも意識して申し上げ続けていますが、今年度も部会の皆様と一緒に県民視点に立つことを忘れずに言い続けていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

(青木委員長)

ありがとうございます。板委員からはいかがですか。

(板委員)

昨年度に引き続き大規模事業評価部会に所属することとなります。大規模事業評価は対象事業を精査中とのことでしたので、どのような事業が今年度評価となるのか未定ではありますが、大規模事業に限らず、全ての事業は県民へ与える影響が大きいと考えております。私はライフサイクル等を専門にしているため、特に県民目線が強く出てしまうこともあろうかと思いますが、そういう面で貢献できるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(青木委員長)

ありがとうございます。小野田委員からいかがですか。

(小野田委員)

大規模事業評価部会の部会長を務めます小野田です。大規模事業を実施する時代ではなくなった気もしておりますが、県民目線で頑張りたいと思います。私は石川県にも関わっていますが、石川県では既に人口減は当然のようになっており、素晴らしいコンセプトを掲げても、実行に移す人材や財源がなく、どうしたら良いかを真剣に考えておりますので、そうした目線での考えがお役に立てばと思っております。よろしくお願いいたします。

(青木委員長)

ありがとうございます。舘田委員からいかがですか。

(舘田委員)

舘田でございます。私は政策評価部会に6年所属していますが、毎年この時期に膨大な量の資料が手元に届くため、資料に目を通すだけでも苦勞しております。

私は3月まで民間企業において、県民目線で県の取組を見た際に、必要性に疑問がある取組が見受けられたこともありましたが、その後経済性だけで事業の必要性を判断できない事例があることも分かり、行政の難しさを感じながら毎年関わらせていただいております。

今年も佐藤部会長と共に委員の方々と喧々諤々と審議をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(青木委員長)

一見無駄に思える取組みが、実は必要だと理解できたとお話だと理解しました。ありがとうございます。それでは、吉田委員よろしくお願いいたします。

(吉田委員)

吉田でございます。私は山形市にあります東北芸術工科大学に所属しておりますが、住まいは仙台市ですので、32年程度仙台から通勤しております。今年度から公共事業評価部会の部会長を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。

公共事業評価部会は、河川・道路・農業基盤と評価が難しい事業が多いと認識してございますが、防災、安全、安心の観点や、公共事業の効率性の観点から、しっかりと仕事をしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(青木委員長)

よろしくお願いいたします。事務局の皆様からはよろしいですか。

(嘉藤企画・評価担当課長)

4月から総合政策課企画・評価担当課長として異動してまいりました嘉藤と申します。よろしくお願いいたします。事務局の責任者のような立場でございまして、責任の重さを噛み締めております。委員の皆様から様々な御意見を頂戴して、より良い評価にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(青木委員長)

ありがとうございます。

それでは、その他何かございますか。よろしいでしょうか。それでは以上をもって、事務局に進行をお返ししたいと思います。

6. 閉会

(大場課長補佐兼企画員(班長))

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和6年度第1回宮城県行政評価委員会を終了いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。